

【違いを学んで】

11月18日(土)に土曜参観を実施しました。1・2年生は3・4時間目に国際理解学習として、韓国・パラグアイ・ブラジルそれぞれの国出身の講師の先生を招いて、文化や考え方の違いを教わりました。多くの保護者のみなさまにも参観していただきました。ありがとうございました。



こういう出前授業のときに、講師の先生とお話するのが、私の楽しみの一つです。違う職業の方や違う背景を持った方のお話は刺激的で、とても勉強になります。土曜参観のときにも授業後に校長室でお話をうかがいました。中でも印象的だったのが、「日本人は働きすぎだと言われるが、南米の人の方が、今日生きるため、明日に命をつなぐために働いているという意味では、働くことに切実さを感じる。」というお話でした。

そのときに思い出したのが、かつて私がバンコク日本人学校で勤務していた時に会った山岳民族の少年です。修学旅行でチェンマイ郊外にある山岳民族の村の学校と交流するため、下見に行った時のことです。初めに村の学校の先生に学校の周りを案内してもらいました。舗装されていないでこぼこの道、飲料水用に雨水を貯めた大きな甕かめ(ボウフラがたくさんいるので、甕をカンカンとたたいて、ボウフラがいなくなったところをさっとすく)、簡素な高床式の家、放し飼いの豚(人が大勢集まるお祭りの時などに焚火で丸焼きにする)等々、大都会のバンコクとはまるで違った生活を目の当たりにしました。そうやって村を歩いているときにこの少年と出会いました。小学校高学年ぐらいに見えましたが、子どもとは思えないような強い視線にドキッとしました。にらんでいるわけではなくて、じっとこちらを見る目力があるのです。

20年以上前のことなので、今はずいぶん変わっているのかもしれませんが、当時はまだインフラも整っておらず、生活するのに様々な苦労があることは、容易に想像できました。この少年も家族の生活を支える一員だったのだと思います。生活を背負っていることの自負、あるいは自信のようなものが、もしかしたら、この少年の目にこれほど強い光を与えているのかもしれないと、その時ぼんやりと考えたことを、南米のお話を聞いたときにふと思い出しました。

住んでいる場所、環境、時代が違えば、生活の困難さも違います。一概にどっちが大変だと言えるものではなくて、今この南花台に住んでいる子どもたちもしんどさを抱えています。今回の国際理解学習のように、違いに目を向けると、これまでとは別の視点で物事を見ることができるようになって、今抱えている困難を乗り越えるためのきっかけを見つけれたらいいなと願いながら、雨の中を帰っていかれる講師の先生方をお見送りしました。

校長 上代 婦美子

大切なお知らせ

12月23日(土)～1月中旬にかけて、古くなった高架水槽の交換工事が行われます。その期間中は学校の水道から出る水が飲料水としては使えなくなりますので、ご家庭でお茶等を用意してください。購買もしくは保健室でお茶(500ml)の販売(100円)はあります。

土曜参観&PTA講演会

たくさんの保護者の方々の参観ありがとうございました。

午後からはPTA講演会「スケアードストレイト(交通事故再現スタント)」が行われました。あいにくの雨で、グラウンドで見ることができませんでしたが、体育館で自転車同士のスタントを見せていただきました。とても迫力があり交通安全について考える良い機会となりました。教室へ戻ってからの感想文もとてもよくかけていました。



ぶつかった衝撃で6段の跳び箱の上を軽々と越えていってしまいました。



並列での自転車の走行がいかに危険かを再現してくださいました

工事の進み具合は・・・



足場が取れ、外壁の塗装が見えてきました。(白と黒、ちょっと赤)



体育館の床の張替え、古い床をめぐっています。



大きなクレーン車キリンみたいですね

